

福山市立東中学校区	校番 10	福山市立旭小学校
最終更新日		2019年(平成31年)2月19日

I 福山市	<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&amp;倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
-------	---

II 中学校区	<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校課題を的確にとらえ、教職員のみならず、児童・生徒にも課題、目標を自覚させ、効果的に取り組んでいる。</li> <li>学校としての取組状況がよく分かり、達成状況も分かりやすい。</li> <li>評価結果に基づく改善策も具体的で効果をあげている。</li> </ul>	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な学力は向上が見られる。</li> <li>自ら課題を発見し、解決しようとする意欲や力量が育ちつつあるが、十分ではない。</li> <li>自分の考えや思いを相手に伝えるコミュニケーション能力に課題がある。</li> <li>相手を思いやる心ややりぬく力に課題がある。</li> </ul>	<p>育成する力(21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見・解決力、コミュニケーション能力、やりぬく力、思いやり</p> <p>21世紀型“スキル&amp;倫理観”を身に付け、自ら考え主体的に学ぶ子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東中学校体育大会リハーサル交流会(校区小学6年生による参観)</li> <li>東中学校オープンスクール(校区小学6年生による体験授業、体験部活動)</li> <li>ESDの推進部会の立ち上げ及び交流</li> <li>校区小中学校合同授業公開(毎年各学校持ち回り)</li> </ul>
---------	--	--	--	--

III 自校

MISSION
『すべては子どもたちのために』失敗を恐れず、チャレンジするとともに、子どもにとって+になるか-になるかの自己判断ができ、将来の自分のビジョンを語れる教職員のもとで自律した(自分で考え、判断し、実行する)児童を育成する。

学校教育目標
心やさしく、自ら学び、生きぬく力を持った旭っ子の育成

現状
<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な学力は定着してきているが、根拠をもとに関係づけて説明する力等活用力に課題がある。また「読み取り」の力が弱く文章問題を解く力の育成が必要である。</li> <li>体力向上に向けて組織的に取り組んできた結果、県平均以上の項目が81.0%となった。投力の向上も見られるが「瞬発力」「調整力」に今後も取り組む。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間児童とともにめあてを設定し、目的意識を持って学習に取り組むことが定着した。</li> <li>目的を明確にしたペア学習・グループ学習を行うことが日々の授業で見られるようになったが、まだまだ指導者が説明する場面が多い、児童のつぶやきや行動・発言等が自由闊達に行われる授業改善に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>

育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	コミュニケーション能力	やりぬく力	思いやり	
めざす子ども像	低学年	○めあてを <b>見つけ</b> 、興味・関心を持って追究している。	○友だちと話し合うことで、 <b>考え</b> を深めている。	○ <b>時と場</b> を考えた行動ができ、正しい判断力をもった言動をしようとしている。	○友だちとともに活動する楽しさを体感し、 <b>仲よく助け合おう</b> としている。
	中学年	○ <b>自ら問題を見いだ</b> し、見いだした問題を興味・関心を持って追究している。	○ペア学習・グループ学習・全体交流で相互に話し合う中で、 <b>学びを深めている。</b>	○ <b>相手意識</b> を持ち、自分の言動をコントロールし、場に応じた行動ができる。	○友だちのよさと自分のよさを知り、学級での <b>自己の役割</b> を自覚して仲良く助け合っている。
	高学年	○自ら課題を見つけ、 <b>生活経験や学習経験を基に</b> 、見通しを持って追究する <b>学び方</b> を身につけている。	○ペア学習・グループ学習・全体交流で相互に話し合う中で、 <b>論理的表現力を高めている。</b>	○ <b>内的規範(自律)</b> を持ち、学校や地域で場に応じたふさわしい行動ができる。	○友だちのことを思いやりながら自分の役割や責任を果たし、 <b>人のために役立とう</b> としている。
研究	教科等	理科(生活科)・特別活動			
	主題・内容等	自分の考えを生き生きと表現できる児童の育成 ～課題解決に向けて協働的な学びのある理科学研究～			
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が自ら課題を見つけ、解決していく授業</li> <li>○かかわり合うことで思考が深まる授業</li> <li>○学んだことを他の授業や生活に活かせる授業</li> </ul>				

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経 営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)																																																					
							目標に係る 取組状況	達成 評価	改善 方策	目標に係る取組状況 ◎短期中期経営目標の達成状況	達成 評価	総合 評価	改善 方策																																																		
2	確かな 学力  基礎・基本の 定着と主体的・対 話的で深い学 びの実現	★	継続	学習内容の確 実な定着を図 り、基礎・基本 の学力、活用力 を身につける。 課 ㊦	①「わがらうタイ ム」を毎月、チ ャレンジプリン ト(算・理)を 毎日実施する。  ②指導者が児童の 学びを深めるた めの A「待つ時間」 B「児童に話させる 時間」 C「他の教科・領域 と結び付ける 発問」の設定	算・理の単元末 テストで70% 以上の児童の割 合を85%以上  職員意識アンケ ート A90%以上 B90%以上 C85%以上 の割合を達成	①単元末テストで70%以上の児童の割合 <table border="1"> <tr><td></td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>全校</td></tr> <tr><td>算数</td><td>95</td><td>92</td><td>86</td><td>77</td><td>85</td><td>81</td><td>86</td></tr> <tr><td>理科</td><td>—</td><td>—</td><td>92</td><td>86</td><td>96</td><td>85</td><td>90</td></tr> </table> 算数86%(昨年85.2%)理科90%(昨年88%) 全体平均は88%(昨年86.5%)  ②職員意識アンケートの結果から A「待つ時間」を実施した.....93% B「児童に話させる時間」を設定した 92.3% C「他教科との結び付ける発問」実施した 92% ■目標指標は上回ったが、全職員が①②③ の意識をもって授業改善を進められるよ うにする。		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	算数	95	92	86	77	85	81	86	理科	—	—	92	86	96	85	90	4	—	・毎月の「わがらうタイム」、 毎日のチャレンジプリント を継続して実施する。 ・1単元や1時間の授業の中 で「児童に考えさせる場面」 を明確にし、児童が主体的 に学べるめあてや、児童の 思考を深める発問の工夫を 行う。 ・研究授業の事前研修を模擬授 業形式で行う。また、授業後 にまとめを発行し、今後の取 組を共有することで、全職員 で「教師が話しすぎず児童に 説明させる」授業の徹底に取り 組む。	①単元末テストで70%以上の児童の割合 <table border="1"> <tr><td></td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>全校</td></tr> <tr><td>算数</td><td>93</td><td>94</td><td>85</td><td>70</td><td>81</td><td>81</td><td>84</td></tr> <tr><td>理科</td><td>—</td><td>—</td><td>88</td><td>84</td><td>92</td><td>88</td><td>88</td></tr> </table> 算数84%、理科88% 全体平均は86%  ②職員意識アンケートの結果から A「待つ時間」を実施した.....93% B「児童に話させる時間」を設定した.....86% C「他教科との結び付ける発問」実施した.....86% ■授業の中で「待つ時間」や「児童に話させる時間」 をもつ意識は職員の中で年間を通して向上した が、次の段階として、クラス全員の児童に話させ る場を設けることが課題である。  総合評価指標 【標準学力調査】 国語：4/6 (67%) 算数：2/6 (33%) 理科：2/4 (50%) } 合計8/16 達成率50%		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	算数	93	94	85	70	81	81	84	理科	—	—	88	84	92	88	88	4	2	3	・来年度も毎月の「わがらうタイ ム」、毎日のチャレンジプリン トを継続して実施する。  ・クラス全員の児童に話させる場を 設ける手立てとして、 ①自分の意見を書く時間を設ける。 ②机間指導を生かして全体の場で 意図的に指名し、多くの児童の意 見を引き出す。 ③「何のために」「何について」「ど のように」話し合うのか目的を明 確にしたペア・グループ活動を設 ける。
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																								
算数	95	92	86	77	85	81	86																																																								
理科	—	—	92	86	96	85	90																																																								
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																								
算数	93	94	85	70	81	81	84																																																								
理科	—	—	88	84	92	88	88																																																								
2	豊かな 心  規範意識や自己 有用感を育成する	★	継続	9年間を見通 した生徒指導 の充実を図り、 規範意識を高 める。課 ㊦  自己有用感を 高め、認め合 い、高め合う児 童を育てる。㊦ ㊧ ㊨	①「旭小学校のき まり」を守るこ とができるよう に児童会による 児童自治を行 い、児童主体の 目標設定を毎月 行う。  ②旭小プロを目指 し、児童一人一 人が得意なこ とを1つ、1年間 通して行わせ、 全員表彰する。  ③児童の欠席状況 を全職員で共有 し、欠席気味の 児童への家庭連 絡等を必ず実施 する。	・実施率100%  ・実施率100%  ・実施率100%	①「旭小学校のきまり」に関わる生活目標 実施率100% □児童会の主導による自治を行い、毎月の 生活目標を設定し、月末に学級ごとの振 り返りと反省を確実に行った。  ②旭小プロ宣言 実施率100% □正面玄関入り口に掲示し、見える化。現 在、継続して取組を進めている。  ③児童の欠席状況共有及び家庭連絡 実施率100% □職員室入り口に日々の状況を記載し、全 職員で出欠状況を把握。欠席児童宅には 担任が必ず連絡を取り、家庭と連携を図 っている。 総合評価指標(中間) 【30日以上欠席児童数】 10月現在1名(昨年度3名)	4	3	・振り返りと反省した点を 翌月にも継続して意識で きるように喚起する。守 れた目標や、守れなかつ た目標について、次はど のようにつなげていけば いいのか、学級で振り返 る時間を設定する。  ・不登校児童の登校復帰や 16日以上欠席児童も 2学期以降順調に登校す るなど、改善の傾向にあ る。引き続き取組を継続 する。	①「旭小学校のきまり」に関わる生活目標 ..... 実施率100% □児童会の主導による自治を行い、毎月の生活目標 を設定し、月末に学級ごとの振り返りと反省を確 実に行った。 月に1回代表委員会を行い、生活目標のふり返り と反省点を確認し、各学級へ伝達させた。  ②旭小プロ宣言..... 実施率100% □正面玄関入り口に掲示し、見える化。現在、継続 して取組を進めている。 学年末には1年間継続できた児童を表彰する。  ③児童の欠席状況共有及び家庭連絡 ..... 実施率100% □職員室入り口に日々の状況を記載し、全職員で出 欠状況を把握。欠席児童宅には担任が必ず連絡を 取り、家庭と連携を図っている。  総合評価指標 【30日以上欠席児童数】  1名(昨年度3名)(達成率100%)  不登校児童 0名	4	4	4	・代表委員会で話し合ったことを伝 えるだけでなく、全校あげて足並 みをそろえて取り組めるように 定期的な声掛けを児童会を中心 に行えるようにする。  ・児童に意識付けをするために、定 期的にふり返る時間の設定を行 う。  ・取組は実施できている。今後も継 続して家庭との連携をこまめに とる。																																																

<p>2 <b>健やかな体</b> 健康・体力づくりの推進</p>	<p>★ 継続 運動に意欲的に取り組み、目標を持って体力づくりをする児童を育てる。<b>【課</b></p> <p><b>【総合評価指標】</b> 2回目実施の体力テスト県平均以上の項目を85%以上</p>	<p>①毎時間の体育授業で、セット運動(ランニング3周→サーキット運動、キャッチボール、体ランニング3周→体操ストレッチ)を取り入れる。 ②休憩時間を月に1度以上、30分設定し、児童全員が外遊びをできる時間を確保する。</p>	<p>・実施率100%</p> <p>・実施率100%</p> <p>・児童全員が外遊びを行う。</p>	<p>①体育授業でのセット運動の取り入れ <b>実施率 100%</b> □サーキットトレーニングの実施により体力向上を図ることができた。</p> <p>②月一回のロングタイム休憩 <b>実施率 100%</b> □ロングタイム休憩(35分間)の間、職員は外へ出ず、児童だけで遊びを考えて体を動かすことができた。</p> <p><b>【新体力テスト県平均以上の種目の割合】</b> <b>67.5% (昨年度 63%)</b></p>	<p>4 -</p> <p>・授業でのサーキットトレーニングは引き続き継続していく。</p> <p>・ロングタイム休憩は計画通り実施できているため、実施回数を増やしたり、通常の休憩時間も外遊びを喚起したりするなどしていく。</p>	<p>①体育授業でのセット運動の取り入れ .....<b>実施率 100%</b></p> <p>□3学期もサーキットトレーニングを継続して行った。子どもたちは、習慣化することでスムーズに行えるようになってきている。</p> <p>②月一回のロングタイム休憩.....<b>実施率 100%</b></p> <p>□ロングタイム休憩(35分間)の間、時間一杯体を動かすことができた。児童も寒さに負けず外遊びを行っている。</p> <p><b>総合評価指標</b> <b>【新体力テスト県平均以上の種目の割合】(再測定)</b> <b>81% (達成率 95%)</b></p>	<p>4 3 4</p>	<p>・来年度も体育授業前のサーキットトレーニングを継続する。</p> <p>・休憩時間での体力アップのために来年度も以下のことを実施する。</p> <p>①月一回のロングタイム休憩。</p> <p>②学年ごと週一回の体育館解放。</p>
<p>市民から信頼される学校 保護者・地域に愛される学校づくりの推進</p>	<p>継続 積極的に情報発信を行い、保護者・地域住民の学校満足度を高める。</p> <p><b>【総合評価指標】</b> 保護者の肯定的評価の割合を90%以上</p>	<p>通信及びHPによる保護者への情報発信の充実を図る。</p>	<p>実施率100% 学校 学年 月1回以上 保健 学級:月2回以上 HP:月4回以上</p>	<p>①通信による情報発信.....<b>実施率100%</b> ②HPによる情報発信.....<b>実施率100%</b> □通信では、行事毎に学校の方針だけでなく、担任の考えや思いも載せて保護者へ発信した。 □今年度、HPで新しく給食献立(写真付)を作成し、毎日発信(4月~)した。 □学力検査及びアンケートによる成果や課題について機会を逃さずに発信した。 ■通信は、学年によって枚数や内容に差がある。 保護者の肯定的評価(7月実施アンケート) ①楽しく学校に行っていますか.....98% ②通信、HP等は子どもの様子がわかりますか.....99% ③学校には相談できる雰囲気はありますか93%</p>	<p>4 4</p> <p>・給食献立について保護者の認知度をあげるため、学校行事を活用し、呼びかけする。 ・通信を提示し、参考にさせる。 ・保護者からの意見や相談に対しては、丁寧且つ迅速に対応することを心掛ける。</p>	<p>①通信による情報発信.....<b>実施率100%</b> ②HPによる情報発信.....<b>実施率100%</b> □給食献立について、参観日や通信によって呼びかけ、保護者に周知した。毎日、給食献立をアップさせた。 □工夫された学級通信を職員に回覧し、参考にしたことで各通信の質も高まった。 □保護者からの意見や相談事について、その日のうちに回答することに職員一同意識統一し、実施した。</p> <p><b>総合評価指標</b> 保護者の肯定的評価(1月実施アンケート) ①楽しく学校に行っていますか.....95% ②通信、HP等は子どもの様子がわかりますか.....96% ③学校には相談できる雰囲気はありますか.....88%</p> <p><b>平均 93%(達成率 100%)</b></p>	<p>4 4 4</p>	<p>・学校からの情報発信は、通信やHPだけでなく、欠席連絡を取る等、保護者と連携を取る際にも児童の様子等を伝えていく。</p> <p>・引き続き、保護者からの意見や相談に対しては、丁寧且つ迅速に対応することを心掛ける。</p> <p>・アンケートの結果を真摯に受け止め、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」との連携を密にして改善を図る。</p>

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。